

【その他の障害福祉サービス等の利用状況と満足度】

		利用率			満足度(%)		
		身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	身体 障害	知的 障害	精神 障害
訓練等 給付サ ービス	自立訓練(機能訓練)	59(4.6%)	33(6.1%)	19(2.6%)	89.8	94.0	84.2
	自立訓練(生活訓練)	47(3.7%)	40(7.4%)	31(4.2%)	89.4	87.5	87.1
	就労移行支援	11(0.9%)	38(7%)	40(5.4%)	100.0	84.2	75.0
	就労移行支援(A型)	11(0.9%)	40(7.4%)	23(3.1%)	100.0	90.0	87.0
	就労移行支援(B型)	23(1.8%)	101(18.6%)	50(6.8%)	100.0	93.1	80.0
	共同生活援助(グループホーム)	12(0.9%)	54(9.9%)	20(2.7%)	100.0	94.4	90.0
地域生活 支援事業	居住サポート事業	10(0.8%)	12(2.2%)	5(0.7%)	80.0	75.0	100.0
	成年後見制度利用支援事業	11(0.9%)	20(3.7%)	7(1%)	90.9	75.0	85.7
	手話通訳派遣事業	13(1%)	5(0.9%)	0(0%)	76.9	80.0	—
	要約筆記派遣事業	2(0.2%)	4(0.7%)	0(0%)	50.0	75.0	—
	日常生活用具の給付・貸与	201(15.7%)	37(6.8%)	21(2.9%)	92.5	83.8	95.2
	移動支援事業	38(3%)	37(6.8%)	3(0.4%)	86.8	97.3	100.0
	地域活動支援センター	14(1.1%)	23(4.2%)	14(1.9%)	92.9	95.7	92.9
	訪問入浴サービス事業	20(1.6%)	5(0.9%)	0(0%)	100.0	40.0	—
	福祉ホーム	10(0.8%)	6(1.1%)	6(0.8%)	100.0	83.3	83.3
	日中一時支援事業(日帰りショート)	45(3.5%)	42(7.7%)	11(1.5%)	97.8	92.9	90.9
	パソコンサポーター	6(0.5%)	3(0.6%)	5(0.7%)	100.0	33.3	60.0
	障害者スポーツ教室	27(2.1%)	39(7.2%)	13(1.8%)	92.6	89.7	100.0
	中途視覚障害者緊急生活訓練事業	5(0.4%)	2(0.4%)	1(0.1%)	80.0	50.0	100.0
	自動車運転免許取得助成	25(1.9%)	6(1.1%)	4(0.5%)	92.0	83.3	100.0
	自動車改造助成	24(1.9%)	3(0.6%)	1(0.1%)	91.7	66.7	100.0

		利用率			満足度(%)		
		障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)	障害 児	発達 障害	難病
訓練等 給付サ ービス	自立訓練(機能訓練)	/	1(0.8%)	2(2.2%)	/	100.0	100.0
	自立訓練(生活訓練)		6(5%)	0(0%)		83.3	—
	就労移行支援		3(2.5%)	0(0%)		100.0	—
	就労移行支援(A型)		1(0.8%)	0(0%)		—	—
	就労移行支援(B型)		4(3.3%)	0(0%)		100.0	—
	共同生活援助(グループホーム)		3(2.5%)	0(0%)		100.0	—
地域生活 支援事業	居住サポート事業	/	0(0%)	1(1.1%)	/	0.0	100.0
	成年後見制度利用支援事業		2(1.7%)	2(2.2%)		100.0	50.0
	手話通訳派遣事業	3(1.3%)	0(0%)	0(0%)	100.0	—	—
	要約筆記派遣事業	0(0%)	0(0%)	0(0%)	—	—	—
	日常生活用具の給付・貸与	26(11%)	1(0.8%)	13(14.6%)	96.2	100.0	84.6
	移動支援事業	8(3.4%)	11(9.2%)	1(1.1%)	75.0	90.9	100.0
	地域活動支援センター	2(0.8%)	6(5%)	1(1.1%)	100.0	100.0	100.0
	訪問入浴サービス事業	0(0%)	0(0%)	1(1.1%)	—	—	100.0
	福祉ホーム	/	0(0%)	0(0%)	/	—	—
	日中一時支援事業(日帰りショート)	44(18.6%)	18(15%)	0(0%)	93.2	88.9	—
	パソコンサポーター	0(0%)	0(0%)	0(0%)	—	—	—
	障害者スポーツ教室	26(11%)	6(5%)	3(3.4%)	92.3	83.3	100.0
	中途視覚障害者緊急生活訓練事業	1(0.4%)	0(0%)	3(3.4%)	100.0	—	100.0
	自動車運転免許取得助成	/	0(0%)	2(2.2%)	/	—	100.0
	自動車改造助成		1(0.8%)	0(0%)		100.0	—

備考) 満足度:「満足している」・「ある程度満足している」の合計

## 6. 障害児支援施設の利用について（障害児・18歳未満の発達障害者のみ）

- 障害児支援施設の利用については、障害児入所支援（福祉型）を除き、通所施設・入所施設ともに利用者の満足度は概ね9割を超えています。
- 施設の利用時の不満・問題については、「施設までの交通アクセスが悪い」や「交通費や利用料等の金銭的負担が大きい」、「本当に利用したい施設がない」などの回答が障害児、発達障害者ともに1割程度あります。

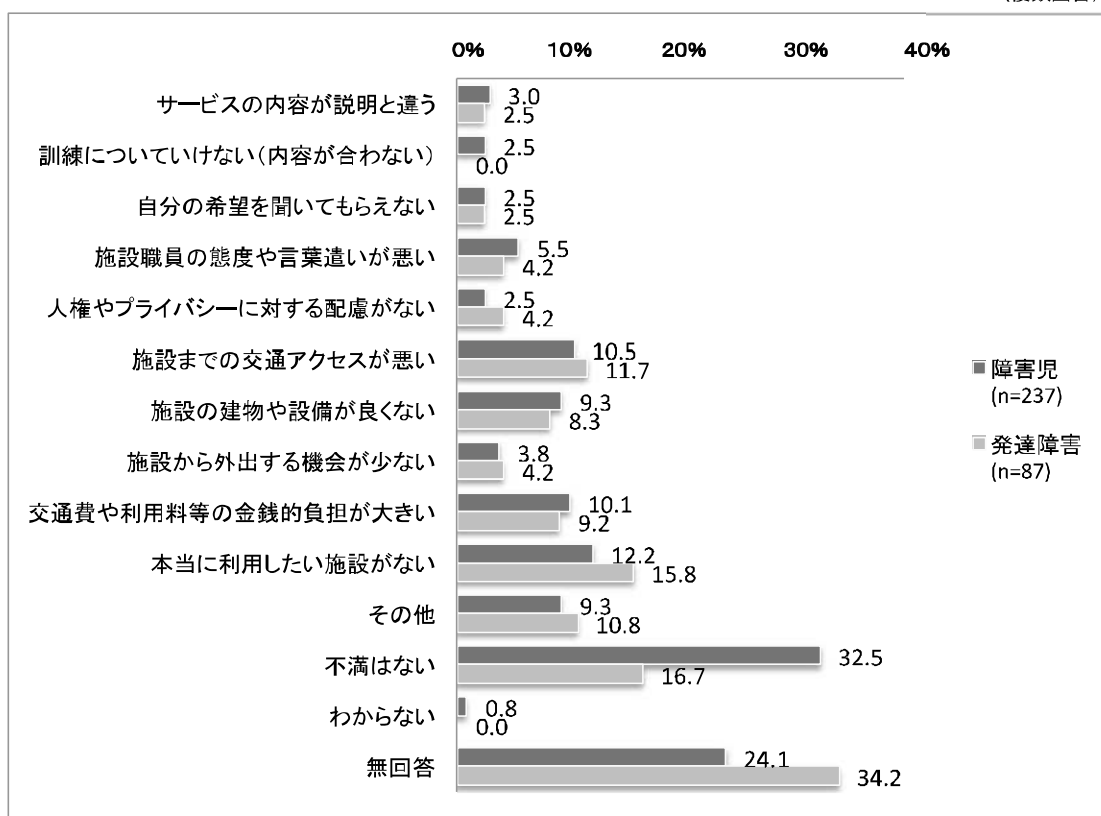
【障害児支援施設の利用状況（障害児・18歳未満の発達障害者のみ）】

		障害児 (n=324)			18歳未満の発達障害者 (n=87)		
		利用者数	利用希望 (%)	満足度 (%)	利用者数	利用希望 (%)	満足度 (%)
通所施設	児童発達支援センター	27(8.3%)	1.9	96.3	4(4.6%)	1.1	100.0
	障害児通所支援事業所	30(9.3%)	1.2	90.0	3(3.4%)	1.1	100.0
	放課後等デイサービス	127(39.2%)	13.0	94.5	34(39.1%)	13.8	97.3
	保育所等訪問支援	11(3.4%)	0.6	90.9	0(0.0%)	1.1	—
入所施設	障害児入所支援(福祉型)	6(1.9%)	3.1	66.7	1(1.1%)	2.3	100.0
	障害児入所支援(医療型)	2(0.6%)	1.5	100.0	0(0.0%)	1.1	—

備考) 満足度は、「満足している」・「ある程度満足している」の合計

【施設利用時の不満・問題】

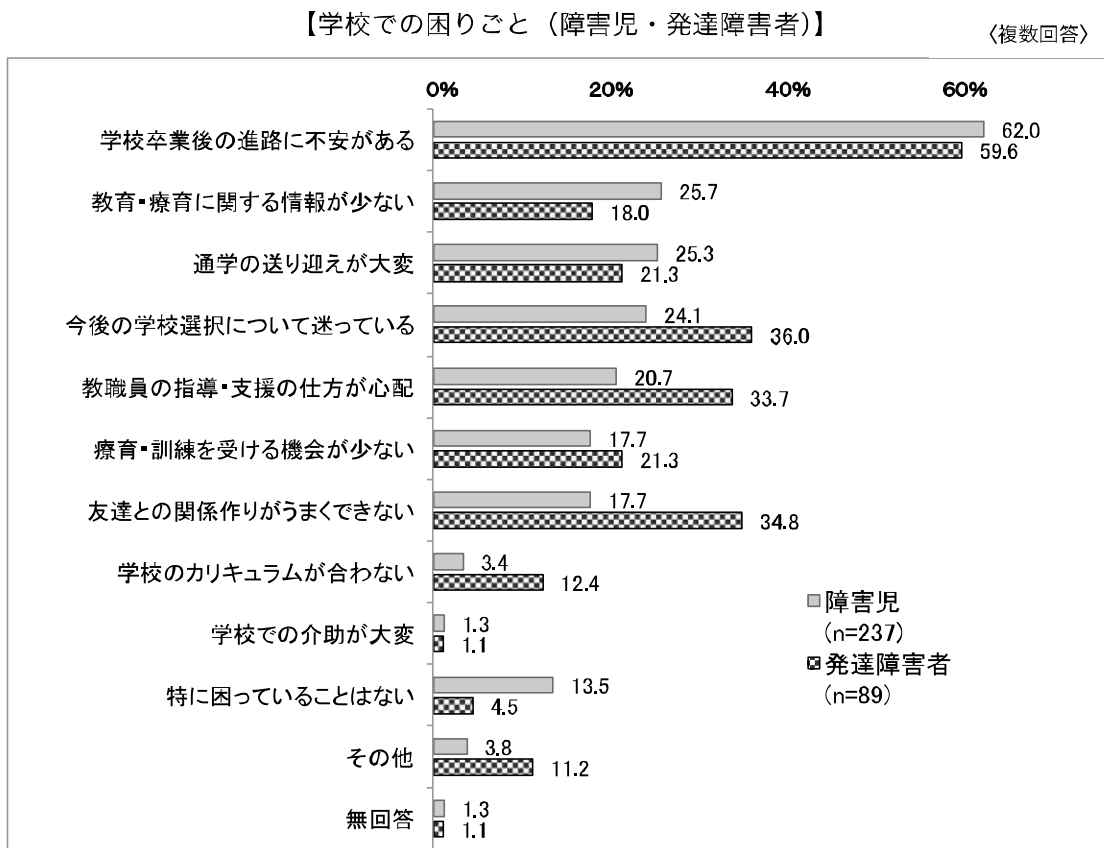
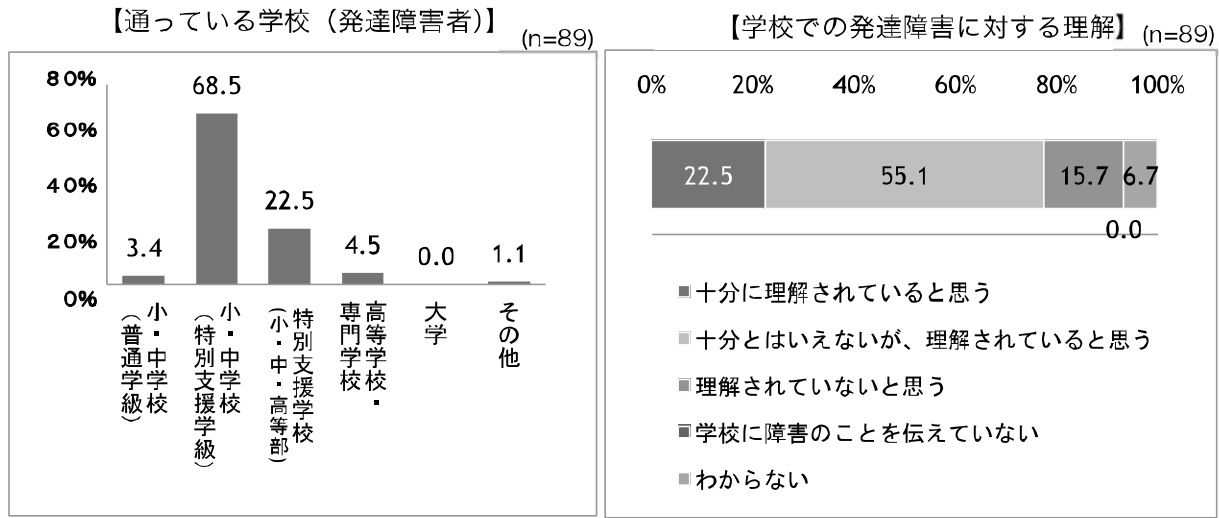
〈複数回答〉



### 3. 日中活動と就労、社会参加

#### 1. 学校や教育について（障害児・発達障害者のみ）

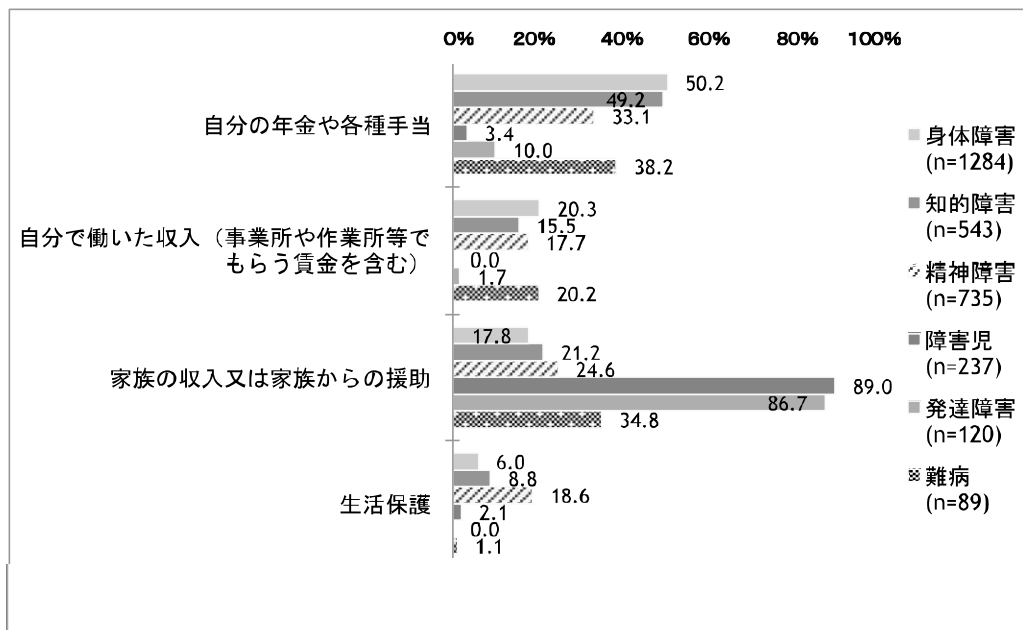
- 就学中の発達障害者のうち約7割は、普通学校の特別支援学級に通学しています。
- 学校での発達障害に対する理解については、概ね理解が得られているようですが、15.7%の回答者が「理解されていないと思う」と答えています。
- 障害児、発達障害者の6割程度の方が、学校卒業後の進路に不安を感じています。



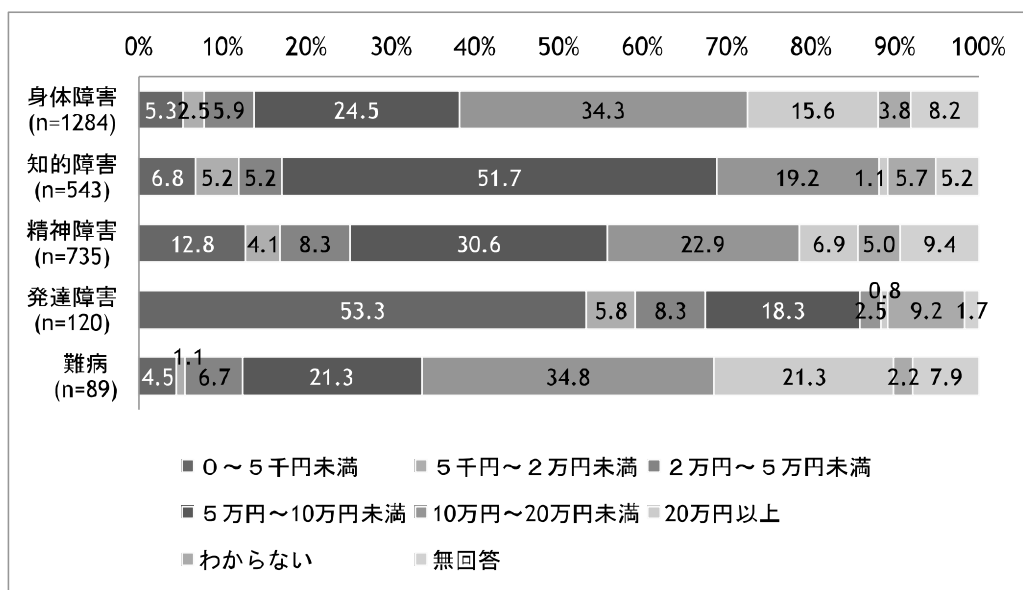
## 2. 収入・生活費の状況について

- 主な収入源は、障害児と発達障害者を除き、すべての障害種で自分の年金や各種手当が最も多くなっています。
- 月の収入額は、身体障害者および難病患者の2割程度が20万円以上であり、他の障害者と比較して高い傾向がみられます。一方、知的障害者の約7割、精神障害者の約6割が月10万円未満の収入であり、精神障害者の18.6%、知的障害者の8.8%が生活保護を受給しています。

【主な収入源】



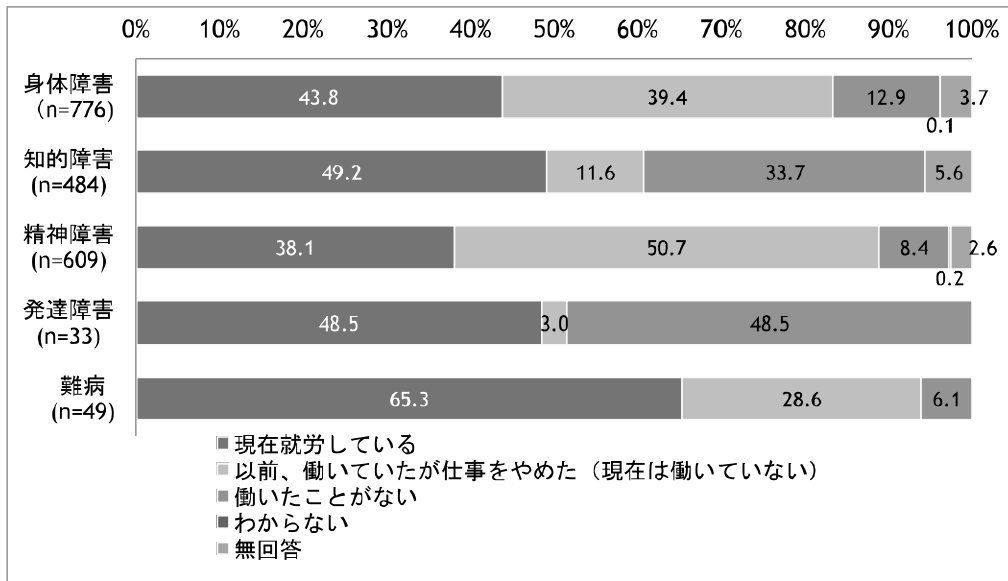
【月の収入額】



### 3. 仕事について（18歳から64歳）

- 18～64歳の回答者のうち、4～6割が現在就労中ですが、精神障害者の場合は、過去に就労経験があるが現在は働いていない人の割合が高い傾向がみられます。
- 就労中の場合、知的障害者や発達障害者は作業所等での軽作業に、身体障害者や難病患者は事務職に就いている割合が高くなっています。

【就労の状況】



【就労形態】

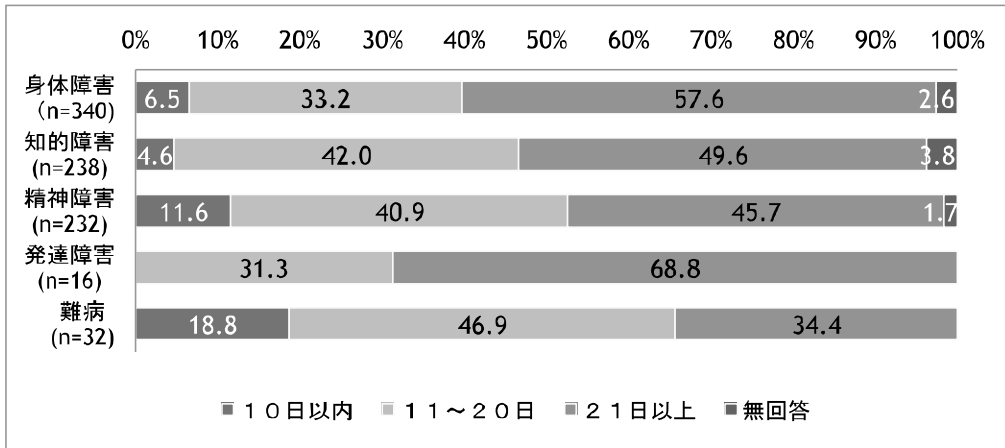
(%)

- 全体的にパートやアルバイトであることが多いですが、身体障害者は正規雇用が最も多くなっています。

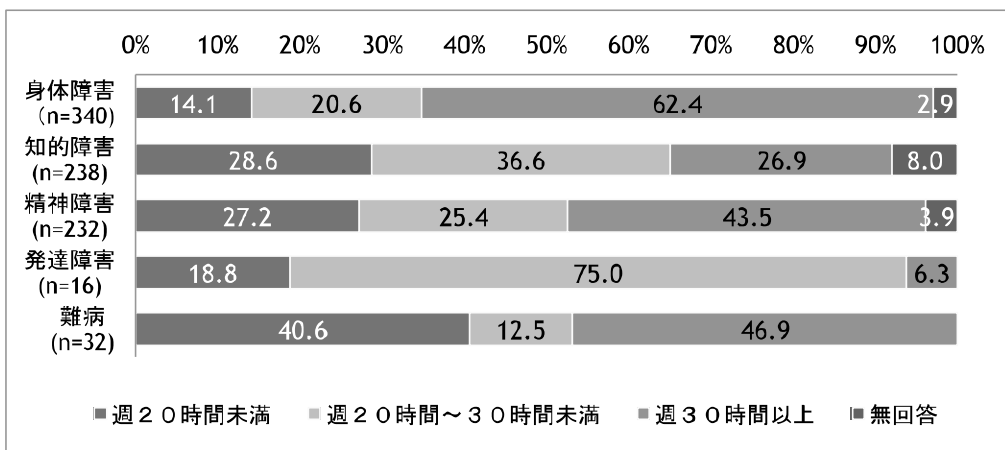
	身体障害 (n=340)	知的障害 (n=228)	精神障害 (n=232)	発達障害 (n=16)	難病 (n=32)
正規雇用（正社員）で、他の社員と勤務条件等に違いはない	46.5	7.6	29.3	0.0	18.8
正規雇用（正社員）で、短時間勤務などの障害配慮がある	5.0	5.0	3.0	0.0	9.4
パート・アルバイトなどの非正規雇用（短時間労働や派遣社員など）	20.0	22.3	32.3	18.8	37.5
自営業	10.3	0.8	2.6	0.0	9.4
家族従事者	1.8	0.8	0.9	0.0	6.3
内職など	0.0	0.8	0.4	0.0	0.0
在宅勤務	0.3	0.0	0.4	0.0	0.0
就労移行支援事業所・就労継続支援事業所・小規模共同作業所など	11.8	54.9	27.2	75.0	9.4
その他	2.4	2.5	1.7	0.0	3.1
わからない	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0
無回答	2.1	3.4	2.2	6.3	6.3

- 多くの人が月に 21 日以上働いていますが、難病患者は月の就労日数も週の労働時間数も他の障害と比較すると少ない傾向がみられました。
- 身体障害者や難病患者の就労継続期間は他の障害よりも長期である割合が高くなっています。一方、精神障害者は就労継続期間が比較的短期でした。

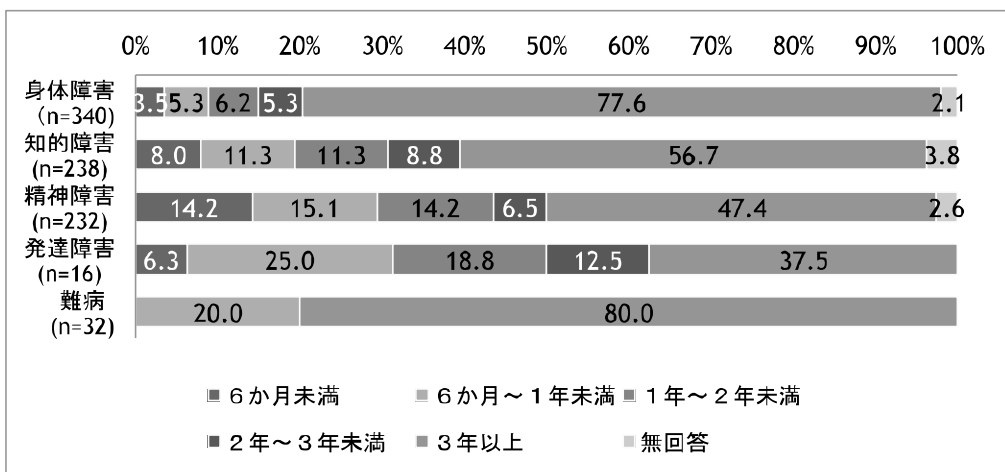
【就労日数／月】



【就労時間／週】

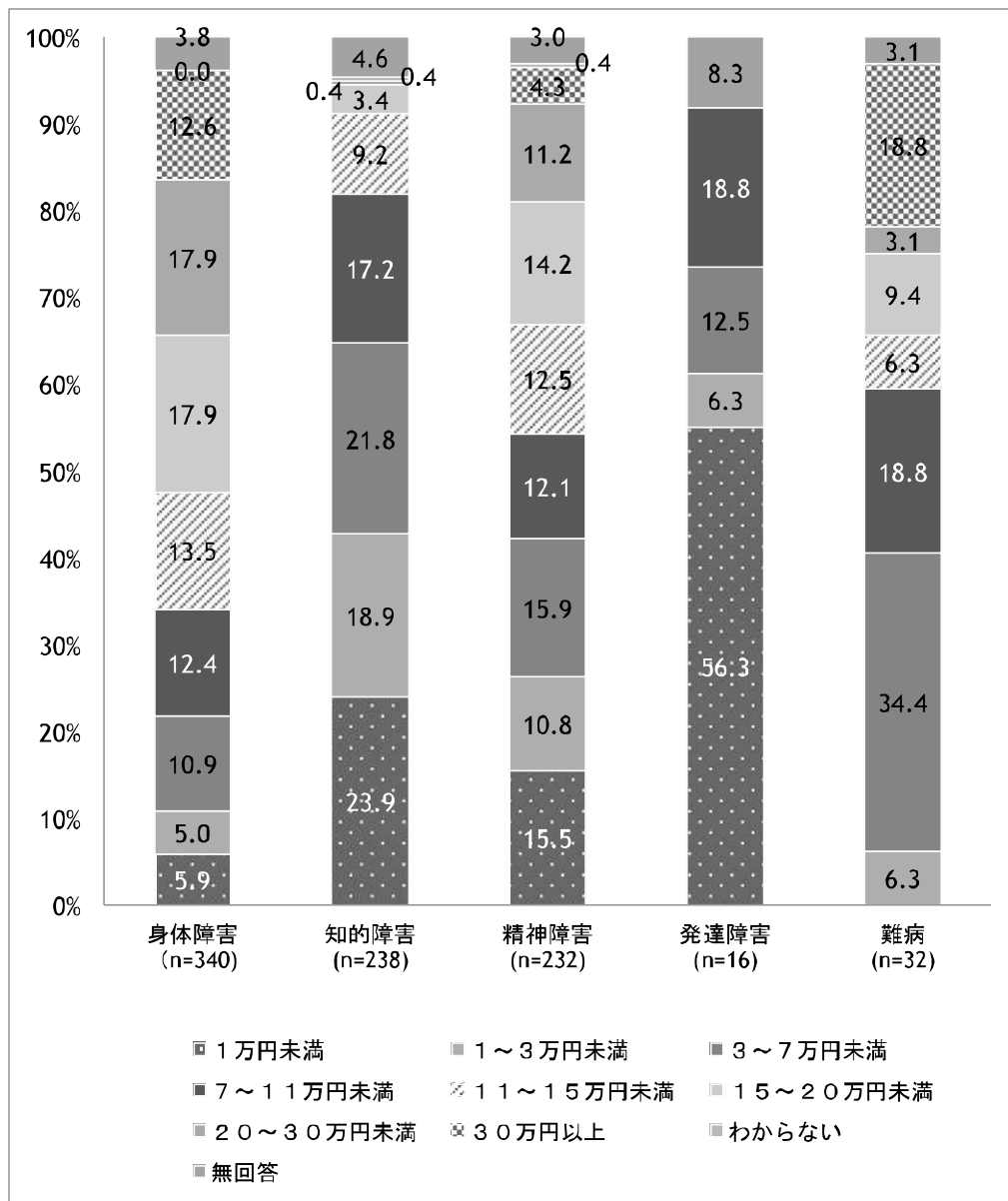


【就労継続期間】



■ 発達障害者の 56.3%、知的障害者の 23.9%が、月収1万円未満であり、身体障害者や難病患者との間に就労収入の開きが見られます。

【平均就労収入／月】



- 仕事をやめた理由としては、「障害や病気で身体的に働くことが困難になったため」という回答が最も多くなっていますが、「職場の人間関係がうまくいかなかったため」、「仕事をうまくこなしていきることができなかったため」という回答も多くなっています。
- 働くために必要なこととして、「障害にあった仕事である」ことや、「周囲が自分の障害を理解してくれる」「勤務時間や日数の短縮などの配慮がある」ことが挙げられています。

【仕事を辞めた主な理由】

〈複数回答〉

	身体障害 (n=306)	知的障害 (n=56)	精神障害 (n=309)	発達障害 (n=1)	難病 (n=14)
1位	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (69.6%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (35.7%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (64.4%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (100%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (78.6%)
2位	仕事をうまくこなしていきことが出来なかったため (10.5%)	仕事をうまくこなしていきことが出来なかったため (30.4%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (30.7%)	職場の人間関係がうまくいかなかったため (100%)	出産や育児など家庭の事情 (21.4%)
3位	職場の人間関係がうまくいかなかったため (9.5%)	障害や病気で身体的に働くことが困難になったため (28.6%)	仕事をうまくこなしていきことが出来なかったため (20.7%)	仕事をうまくこなしていきことが出来なかったため (100%)	職場の人間関係がうまく行かなかったため (14.3%)

【働くために必要なこと】

〈複数回答〉

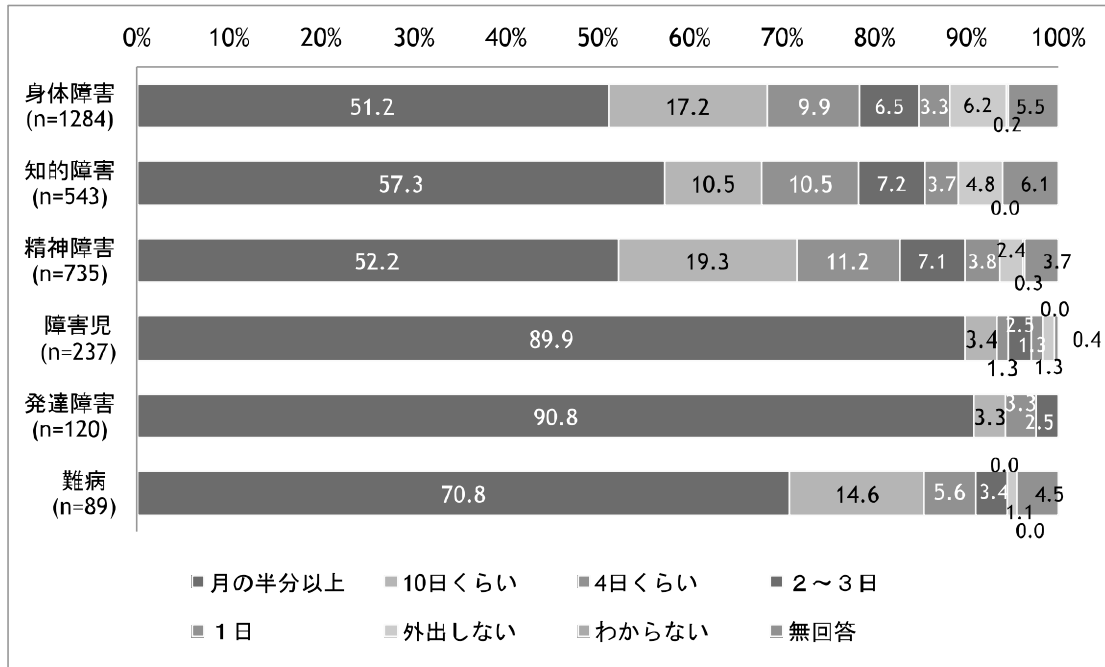
	身体障害 (n=776)	知的障害 (n=484)	精神障害 (n=609)	発達障害 (n=33)	難病 (n=49)
1位	障害にあった仕事である (34.9%)	障害にあった仕事である (43.0%)	勤務時間や日数の短縮などの配慮がある (42.9%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (66.7%)	通院などの保障があること (57.1%)
2位	周囲が自分の障害を理解してくれる (29.9%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (37.6%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (40.2%)	障害にあった仕事である (60.6%)	勤務時間や日数の短縮などの配慮がある (51.0%)
3位	勤務時間や日数の短縮などの配慮がある (26.0%)	職場により指導者や先輩がいる (36.4%)	職場により指導者や先輩がいる (33.2%)	コミュニケーション支援が充実している (57.6%)	周囲が自分の障害を理解してくれる (42.9%)
4位	通勤手段が確保できる (21.6%)	コミュニケーション支援が充実している (27.5%)	障害にあった仕事である (29.6%)	職場により指導者や先輩がいる (57.6%)	障害にあった仕事である (30.6%)



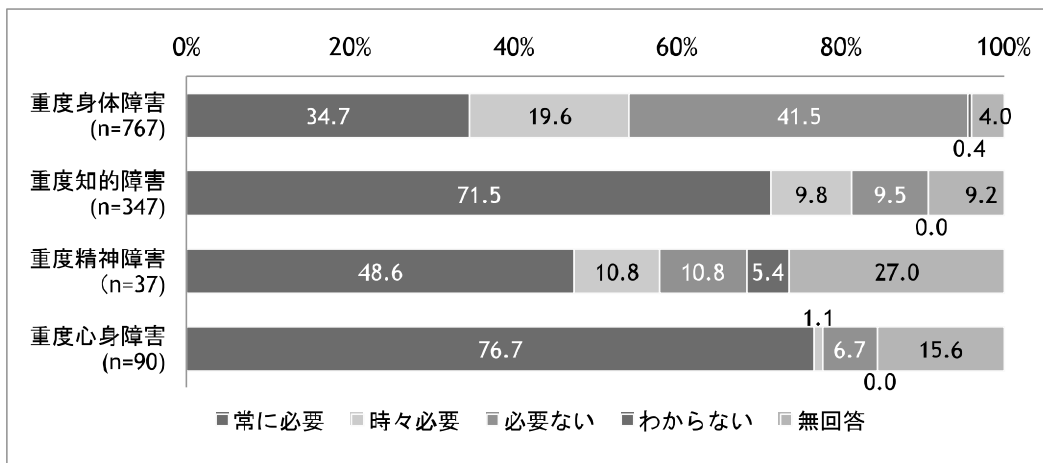
#### 4. 外出状況について

- 障害児と発達障害者は約9割が月の半分以上で外出しており、他の障害に比べて外出回数が多い傾向にあります。
- 重度知的障害者では単独で外出できるケースは9.5%、重度心身障害者では6.7%にとどまっています。

【外出日数/月】



【外出時の介助者の必要性（重度障害者のみ）】



備考) 全回答者のうち、それぞれ身体障害者手帳1・2級保持者、療育手帳A1・A2保持者、精神障害者保健福祉手帳1級保持者、身体障害者手帳1・2級と療育手帳A1・A2の両方を保持している人。

- 外出時に困ったこととして「歩道や建物に段差が多い」「周りの人の目が気になる」という回答が多く挙げられています。

【外出時に困ったこと（上位5位）】

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=84)
1位	歩道や建物に階段や段差が多い (37.9%)	歩道や建物に階段や段差が多い (17.9%)	発作など突然の身体の変化が心配 (23.7%)	周りの人の目が気になる (23.2%)	周りの人の目が気になる (24.2%)	歩道や建物に階段や段差が多い (25.0%)
2位	休憩スペースが少ない (15.8%)	周りの人の目が気になる (17.5%)	周りの人の目が気になる (22.9%)	歩道や建物に階段や段差が多い (19.4%)	困ったときまわりの人が助けてくれない (15.0%)	休憩スペースが少ない (21.4%)
3位	タクシーを利用することが多く経費がかかる (13.9%)	発作など突然の身体の変化が心配 (12.9%)	休憩スペースが少ない (17.0%)	歩道がなく、また狭いため安心して通行できない (14.8%)	横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (10.8%)	歩道に障害物が多い (15.5%) タクシーを利用することが多く経費がかかる (15.5%)
4位	歩道に障害物が多い (13.2%)	休憩スペースが少ない (10.9%) 横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (10.9%)	歩道や建物に階段や段差が多い (13.9%) 公共交通機関の料金割引サービスがないものがあり経費がかかる (13.9%)	横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (13.5%)	休憩スペースが少ない (10.0%) 介助してくれない人がいない (10.0%)	発作など突然の身体の変化が心配 (15.5%)
5位	発作など突然の身体の変化が心配 (11.6%)	休憩スペースが少ない (10.9%) 横断歩道などで車が止まってくれないなどの危険が多い (10.9%)	休憩スペースが少ない (17.0%)	休憩スペースが少ない (11.4%)		

備考)「特になし」は順位に含めていない。

「その他」の具体例

- 家族・施設の人以外とは言語が不明瞭なので、しゃべることができない。
- 同じものを何個も買ったり高額な商品を騙されて買ってしまう。
- 音楽、鳥の鳴き声。
- 公共のトイレに大人用のおむつ替えベッドが欲しい。
- 困った時に自分から言えない。交通機関が理解できない。
- エレベーター、障害者トイレの利用者が増え、待つのに時間がかかる。

## 5. 余暇活動や社会的活動について

- どの障害種においても、「買い物」が最も多く行われている余暇活動です。また、精神障害者以外では「ドライブや旅行」も多く、「映画やコンサート、演劇などの鑑賞」も比較的多く行われています。
- これらの余暇活動は、今後行いたい活動としても選ばれています。障害児や発達障害者では、今後行いたい活動として「スポーツ」を挙げる人も4割弱います。

### 【行っている活動】

〈複数回答〉(%)

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
映画やコンサート、 演劇などの鑑賞	16.3	19.9	17.6	23.6	28.3	26.2
スポーツ	7.7	10.7	11.4	21.9	27.5	13.1
バスハイクなどの レクリエーション	5.1	12.7	4.9	3.0	10.8	9.5
ドライブや旅行	21.0	23.2	15.2	37.1	37.5	27.4
パソコン教室などの 学習活動	1.9	0.9	1.9	3.4	3.3	1.2
文学や歴史などの 趣味・教養の講座	3.0	0.6	2.6	0.4	0.0	4.8
絵画や書道、音楽、 ダンス、劇などの サークル又は教室	3.3	5.0	4.5	10.1	10.8	7.1
カラオケやゲーム センターなどの娯楽	8.9	22.7	14.4	20.7	23.3	13.1
買い物	38.9	49.0	50.9	47.3	47.5	52.4
セルフヘルプ活動	0.2	0.6	1.4	0.0	0.8	0.0
ボランティア活動	3.4	2.9	4.1	0.8	3.3	10.7
障害者団体活動	2.3	6.4	1.4	5.9	13.3	21.4
自治会活動	4.0	2.8	2.9	0.8	1.7	7.1
その他	5.6	8.7	12.8	9.7	15.8	9.5
特に何もしていない	34.3	20.8	26.3	21.1	11.7	16.7
わからない	0.2	0.4	13.1	0.0	0.0	0.0
無回答	8.3	10.5	8.4	3.4	0.0	4.8

## 6. 障害者スポーツについて

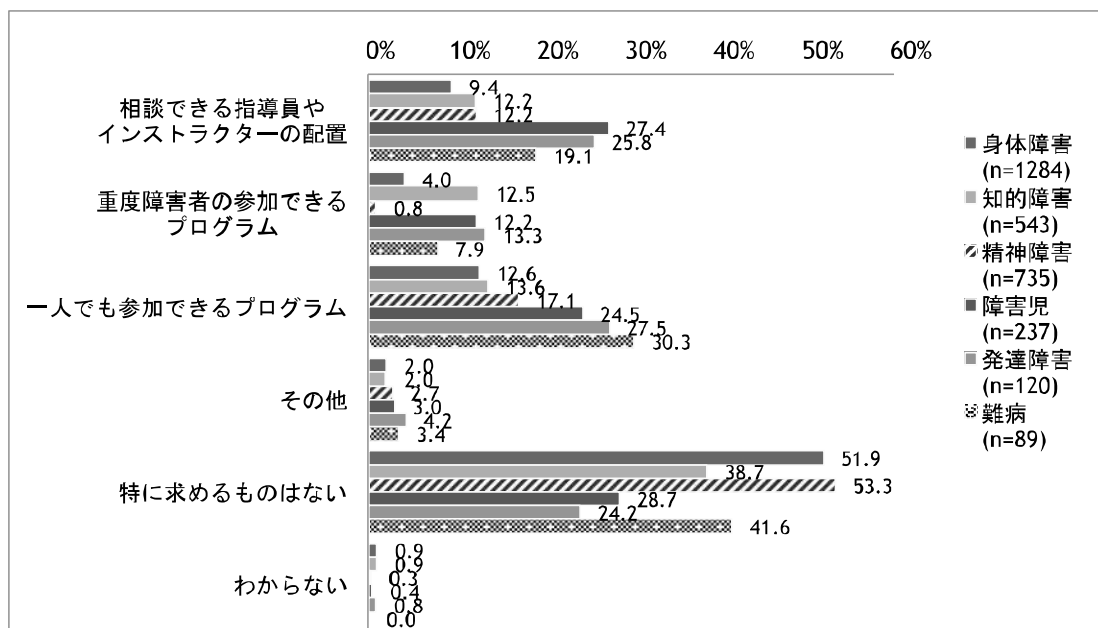
- 今後行いたいスポーツとして「水泳」や「スポーツジムなどの利用」などが挙げられています。障害者スポーツセンターに対しては「相談できる指導員やインストラクターの配置」や「一人でも参加できるプログラム」を求める声が多くなっています。

【今後行いたいスポーツ（上位5位）】

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	水泳 (10.7%)	ボーリング (12.2%)	スポーツジムなどの利用 (16.6%)	水泳 (28.7%)	水泳 (31.7%)	スポーツジムなどの利用 (22.5%)
2位	スポーツジムなどの利用 (9.3%)	水泳 (11.4%)	水泳 (15.1%)	ボーリング (13.9%)	スポーツジムなどの利用 (15.8%)	水泳 (18.0%)
3位	ボーリング (4.7%)	ふうせんバレーボール (10.5%)	マラソン・ランニング (9.3%)	マラソン・ランニング (10.5%)	ボーリング (9.2%)	マラソン・ランニング (11.2%)
4位	マラソン・ランニング (3.0%)	スポーツジムなどの利用 (8.1%)	卓球 (6.4%)	ふうせんバレーボール (10.5%)	マラソン・ランニング (9.2%)	ボーリング (7.9%)
5位	卓球 (2.4%)	マラソン・ランニング (7.7%)	ボーリング (5.7%)	サッカー (7.6%)	ふうせんバレーボール (9.2%)	卓球 (7.9%)
			テニス (5.7%)		卓球 (9.2%)	

【障害者スポーツセンターに求めること】



備考) 無回答は除く